

## 正しい未来を選択するために

東臼杵支会代表 星川 達哉

「人生は選択の連続である」。イギリスの劇作家であるウィリアム・シェイクスピアの代表作『ハムレット』にある非常に有名な一文です。どんな服を着ようか、何を食べようか、といった小さな選択や人生における大きな決断を無意識かつ意識的に多くのことを選択しています。こうした選択の積み重ねが人の人生を形づくり、人が集まれば、組織、社会やがては国家が形成されていきます。私たちが選択をするにあたって、取捨選択の基準には、「幸福になること」、「より豊かになること」が挙げられます。これらは人の潜在的な欲求に起因するもので、誰しも当然の理です。そして、国が幸福になること、豊かになることが政治の役割であり、その基礎となるのが選挙制であり「選択」です。

さて、現在では多くの国々で政治形態として採用されている民主主義ではありますが、私たちの国日本もその一つです。古くは古代ギリシャのころから政治思想として認知はされていたものの、長らく君主制や貴族制といった一部の人間が権力を掌握し、多くの国民は政治に参加することはできず、民主制は衆愚政治と揶揄され否定されていました。その後、政治の腐敗や啓蒙思想による自由主義の萌芽などを皮切りに、血で血を洗う革命の末、欧米諸国では議会政治が導入され法の支配の元、民主制が徐々に普及していきました。しかし、列強国の侵略や世界恐慌などの混乱により政治への不信感が高まり、社会主義やファシズムの台頭も重なり、人類は二度も世界を二分する大きな戦争を引き起こしました。こうした歴史も人類が選択した結果と言えます。

こうして、終戦からおよそ80年が経過し世界のほとんどの国々が民主制を採用しています。しかしながら、ロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争などそれぞれの大義があるのですが、幸福とは言えない現状に直面している地域も少なくありません。わが国でも、これらの紛争を起因とする物価高騰や少子高齢化など数えきれないほどの問題を抱えています。また、連日のように政治家の不祥事に関する報道や民意が十分に反映されているのか疑問のある法律の制定など政治への不信感は日に日に増しているように感じます。最近では安倍元首相の暗殺といった最悪の形で露呈することになりました。

民主政治は万能ではありません。残念ながらすべての人類を幸福にすることは叶わないかもしれません。それでも私たちは選択しなければなりません。私たちを取り巻く様々な課題がどんなに複雑で困難であろうと、考え、過去に学び、それでも分からなければ誰かに教えてもらったり、みんなで考えたり、そして解決策をあるいは解決に導いてくれる人物を選ばなければなりません。時には私たちは結果として誤った選択をしてしまうかもしれません。選ばれた私たちの代表が間違いをしたのならば、その一方で選んだ私たちにもその責任があるでしょう。私たちは正しい選択をするために、日常から得られることを経験として吸収し、時には歴史を手本として学び、現代の氾濫する情報の山から正確なものを見極め、自らの選択の判断材料としていかなければなりません。より幸福で豊かな人生を望むのであれば私たちは選択することを放棄してはいけません。私たちが参加したところで政治が良くなるかは正直なところ分かりません。しかし、参加しなければ決して良くなることだけは分かります。

私は、過去に自分たちの幸福と次の世代の人々のために選択をしてきた人々に倣い、今を生きる私たちの世代と未来の子供たちが幸福で豊かな人生を送ることを選択します。